

平成 31 年 1 月 8 日

福生市議会議長 杉 山 行 男 様

正和会会長 清 水 義 朋

## 福生市議会正和会 行政視察報告書

〈日程〉 平成 30 年 11 月 6 日(火)～7 日(水)

〈視察先〉 北海道 登別市

〈調査事項〉 1) 認知症対策について  
2) 子育て支援について

〈視察参加者〉 正和会 会長 清水 義朋  
町田 成司  
大野 聰  
田村 昌巳  
杉山 行夫  
乙津 豊彦  
末次 和夫  
武藤 政義  
幡垣 正生  
佐藤 弘治  
計 10 名

## 【視察経緯】

福生市と登別市は、互いの市役所職員を相手側の市役所へ配属し、交流と研修を  
実践している。今回視察目的の認知症対策と子育て支援については、当市において  
も喫緊の課題であり、全国屈指の観光地でありながら、産業振興にも力を注いでいる  
登別市の取り組みを学び、当市における課題への参考とするべく視察を行いました。  
以下視察内容の概要を示し報告とします。



登別市役所前

## 【視察報告】

### 1) 認知症対策について

平成 30 年登別市の高齢化率は 35.4%であり、2025 年には 38.1%になると見込ま  
れている。この高齢化率の上昇や、認知症高齢者の増加をきっかけに、平成 24 年度  
より「はいかい高齢者等SOSネットワーク事業」を行っている。事業の目的は、高齢  
者がはいかい等により行方不明となった場合に、地域の協力を得て早期に発見し、  
保護するための仕組みを構築することで、認知症高齢者等を介護する家族の精神的  
負担の軽減を図ることである。これを達成するため、平成 27 年度より地方創生交付

金を活用し、GPS貸与事業を開始した。利用者は、認知症高齢者を在宅で介護している家族、緊急時に家族が自身のスマートフォン等で専用サイトにログイン、位置を検索し、端末を操作しながら居場所を探すシステムである。実際に貸与を受けた利用者からは概ね「安心」とのアンケート結果を得た。7月には模擬訓練を実施、捜査にかかった時間は最短5分、最長10分であった。課題として、異変に気づいたら素早く活用すること、また、スマートフォンを使用できない家族への説明等があげられた。



貸し出しGPS

これとは別に、登別市では平成 27 年より「認知症あんしんガイドブック」を発行しており、市民が認知症を正しく理解し、認知症になっても誰もが住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう認知症の状態に応じた適切なサービス提供に関する社会資源などを紹介し、認知症の予防や早期発見・早期支援に役立てるものとしている。また、平成 24 年より認知症カフェ、平成 19 年より認知症サポーター養成講座を開催し、市民への啓蒙活動に努めている。

## 2) 子育て支援について

登別市では、平成 24 年の子ども・子育て支援法に基づき、平成 26 年に「子ども・子育て会議」を設置した。登別市長が委託した委員によって組織され、活動しており、庶務を登別市保健福祉部子育てグループが行っている。

また、保健福祉部子育てグループは「幼保一元化事業」にも取り組んでいる。

この事業に取り組むこととなった背景は、平成 11 年に国が策定した「少子化対策指針」において「幼稚園と保育所の連携」が位置づけられ、地域の実情や需要に応じた両者の連携が可能となった。登別市において、幼稚園は市立、私立共に定員を下回る状況となっていることから、平成 16 年度までに幼稚園を廃止する方針を打ち出した。このような背景から、0 歳児から就学前の子供たちの保育・教育を適切に推進することを目指して、幼保一元化モデル事業に取り組むこととなった。

推進地区の選定については、幼稚園、保育所、児童館、小学校、中学校が位置的に集約され、幼稚園・保育所の連携は基より、学校及び児童関連施設との連携が図りやすい地区であるため、登別地区を採択した。保育所【登別温泉保育所・登別保育所・富浦保育所】を統廃合し、登別地区に新たな保育所を建設すると共に、未満時保育や一時保育、延長保育の実施、子育て支援体制を充実するための子育て支援センターを併設し、多機能な保育所として整備を図った。幼稚園については、幼保一元化モデル事業を推進するにあたって、私立幼稚園協会パートナー候補の推薦を依頼

し、登別地区で白雪幼稚園を経営している学校法人「登別立正学園」が推薦された。当該法人は、老朽化した幼稚園を市が新設する保育所の隣接地に移転新築することとし、幼保一元化事業の実施に向けて取り組むこととした。幼保一元化を推進するためには、幼稚園と保育所が一体となった施設が理想であり、当初がそのような施設の建設に向けて検討を行ったが、民間幼稚園を経営するものは基本財産を所有することが条件であることから、合築を断念して幼稚園と保育園をそれぞれ建設し、渡り廊下により接続して、可能な限り連携と融合を図ることのできる施設とした。



渡り廊下で接合した幼稚園と保育所

幼保一元化の推進について、幼稚園は文部科学省が定める「幼稚園教育要領」、保育所は厚生労働省が定める「保育所保育指針」に基づき教育・保育を行っているが、モデル事業の推進に当たっては、幼稚園と保育所を一元化したカリキュラムによる教育・保育の推進や、合同事業の実施、小学校との連携・交流を実施するなど、可能な限り融合を図りながら幼保一元化を目指すこととした。

幼保一元化事業の具体的な取り組みとしては、①3歳以上児については、幼稚園児・保育所児を混合した年齢別クラスを編成し、保育を実施すること、②0歳児から5



歳児までの未就学児童の教育・保育について、登別市独自の一貫したカリキュラムに基づき実施すること、③運動会や発表会などの事業を合同で実施すること、④3歳以上児の給食は合同で実施すること、⑤幼稚園と保育所の保護者を対象に、合同の保護者会を設置することとした。



幼稚園でのヨコミネ式教育の一場面

#### 【所感】

福生市と登別市は、かねてより市役所間の交流を行っており、今回の視察でも終始和やかに、友好的に意見交換が行われました。登別市は全国屈指の観光地であることからよく整備されており、観光による収入も多く、観光地らしい賑わいを見せていました。しかしながら、少子高齢化はいずれの地域でも重要な問題であり、それぞれの行政が独自に取り組んでいる事業は大いに参考になった。

福生市においても認知症対策、子育て支援いずれも早期に取り組まなければならない課題であり、特に大きな観光資源がない当市にとっては、登別市の視察で学んだ取り組みを参考に、当市に合った事業の創生を検討する必要があると感じました。地域性、市の状況を鑑み、可能な限り少子高齢化対策に取り組むべく検討を続けて

いきたい。としまして、所感とさせていただきます。



登別市役所内での会議